

巻頭言

「研究業績を上げるために、紀要を上手に利用しましょう」

大学の教員は教育とともに研究をすることが求められますが、そこで問われるのが、いかに質の高い研究を継続しているか、であると思います。研究者の中には、数年間に一つだけ非常に質の高い研究を行って、質の高い雑誌に1編の論文を出せばよい、という人もいますが、そのような人はまれです。いろいろなレベルの研究を同時並行で行って、いろいろなレベルの雑誌に出来る限り多く発表していく中で、質の高い研究も発表できるようになる、というのが一般的で、私もそのように思っています。私はまだ若い頃、3つの別々のテーマの研究を同時に行うのが最も効率がよい、という指導を上司から受けていましたが、今でもそれが身についています。

そうした中で、研究者として紀要をうまく利用していくことが大切になります。自分の研究テーマの構想を整理するために総説を紀要に投稿するのもよいでしょう。また、質の高い研究を行う前段階としてパイロット研究を行って紀要に投稿するのもよいでしょう。あるいは、何らかの欠陥がある研究であったために質の高い雑誌には投稿できないが、次のステップの研究を行うためにその研究を紀要に投稿しておく、というのもよいでしょう。

私の前職の札幌医科大学医学部にも紀要に相当する札幌医学雑誌という雑誌があり、上記のいずれかに該当する研究の発表先として私は頻繁に利用していました。どこに投稿してもなかなか受理されない論文を、札幌医学雑誌に投稿したこともありました。一つの研究にはそれなりに労力や費用がかかっていますので、やりっぱなしにしてどこにも投稿しないというのは無駄であり、消耗してしまいます。特に、競争的に獲得した研究費を使った研究であれば、やりっぱなしは許されず、次回の研究費獲得の障害にもなります。

結論としまして、研究業績を上げるために、紀要を上手に利用しましょう。

学長 森 満